"2018ひろしまフラワーフェスティバル"のパレードに参加しました 一グアナファト文化交流団受入れに協力—

5月3日(木・祝)から5日(土・祝)の3日間晴天に恵まれ、今年で42回目となります"2018ひろしまフラワーフェスティバル"が開催されました。3日(木・祝)、フェスティバル初日の開会式直後からスタートする花の総合パレードに、グアナファト州から広島県に派遣された文化交流団の楽団「エストゥディアントゥナ」10名と伝統舞踊「エル・トリート」12名と共に、当親善協会からは金井会長、鵜野副会長をはじめ、会員企業の社員や家族と広島県関係者、そしてマツダ本社工場のメキシコ人実習生50名が加わり、総勢120名余りが「広島県&メキシコ・グアナファト"メヒコ・アミーゴ"」チームとして参加しました。



パレード隊先頭で横断幕を掲げ行進する参加者

パレードは平和大通り会場東の田中町から西に向かい西平和大橋までの1,200mを約35分かけて、参加者は、キャンプ・メヒコのロゴがプリントされたメキシコ国旗の3色、赤、白、緑それぞれのTシャツを着て、先頭と最後尾で「グアナファトの皆様ようこそ!広島へ」、「広島県は東京オリンピックメキシコ選手団の事前合宿地」をPRする横断幕を掲げ、幟を持ち、メキシコ国旗の小旗を振りながら行進しました。

また、文化交流団の、特に「エル・トリート」は、奇抜な仮面と衣装でパフォーマンスを繰り広げ、注目を集めました。そして、我がチームは、出場した111団体の中から、四つの賞のうちの"ユニーク賞"を受賞しました。



パレード隊最後尾で横断幕を掲げる参加者と演奏をしながら行進する「エストゥディアントゥナ」



パレード隊の先頭でパフォーマンスを繰り広げる「エル・トリート」

フェスティバルの3日間、17世紀に始まった伝統音楽を継承する楽団「エストゥディアントゥナ」と同じく17世紀より収穫を祝うために生まれ、グアナファト州シラオの風習で市民祭りや宗教行事に欠かせない伝統舞踊「エル・トリート」は、それぞれ4つのステージを大いに盛り上げ、観客を楽しませてくれました。また広島県が出展した「メヒコ・アミーゴひろば」では、パネルや民芸品の展示、民族衣装の試着、グアナファトの文化交流団として来広したシェフによるメキシコ料理が振舞われました。

当親善協会もマツダ Zoom-Zoom ひろばにおいて、一昨年から、今回で3回目となりますグアナファト物産販売に協力しました。

グアナファト文化交流団の受け入れは、広島県とグアナファト州の友好を一層深めることができ、また、メキシコ選手団事前合宿地を大いにアピールできました。



メヒコ・アミーゴひろば前にも「エル・トリート」が登場



「エストゥディアントゥナ」の演奏で盛り上がるコスモスステージ

